

●個別学習

■児童生徒実践型

実践タイトル Webを使って海外の人に質問をする

本時のねらい

Whatを使って質問をしたり、その質問に答えたりして、その答えをもとに自己紹介文を書く。そのためにICTを使って生徒の自己紹介文を全員で共有したり、海外にいる人に自己紹介をしたり、その人の自己紹介を聞いて理解し、質問をしたりさせる。

主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等とそのねらい

タブレットPC

自己紹介文をタブレットPCに記入させ、それを電子黒板に提示して全員で共有した。テレビ会議システムを使って海外にいる人と互いに自己紹介をさせ、Whatを使った疑問文で質問をさせた。

PC教材

デジタルノートで自己紹介を書くページを作り、あらかじめ生徒のタブレットPCに配付しておくことで、授業中スムーズに作業に入ることができた。また、電子黒板に提示して全員で共有することができた。

参考にしてほしいポイント

タブレットPCの良さは個別学習から協働学習に瞬時に移ることができる点である。自己紹介文から誰のことがか当てるといったゲーム的要素を入れたため、楽しく文章を読むことができた。また自己紹介を書くために使用したデジタルノートはペンで文字を書きやすく、短い作文をさせるには使いやすかった。テレビ会議システムを使った海外との交流は準備と相手が必要だが、生徒の反応はとてもよく、活発な活動につながった。

学習の流れ(分)		主な学習活動と内容	ICT機器・教材、コンテンツ等
本時の展開	導入	0 ○ワークシートを使ったWhatの練習 ・ワークシートに質問の回答を記入 ・クラスメートにインタビューして自分と同じ回答の人を見つける 15	・ワークシート(写真1)
	展開	○タブレットPCに自己紹介文を記入 ・ワークシートに記入した回答をもとに自己紹介文を記入 ・電子黒板に提示された自己紹介文が誰のものかを当てる 35	・タブレットPC(写真2) ・電子黒板
	まとめ	○本時の活動のまとめ ・アメリカにいるALTの家族と互いに自己紹介をして、質問をする ○次時の連絡 ・次時の予習をしておくように連絡 50	・電子黒板 ・テレビ会議システム(写真3)



写真1: ワークシートでインタビュー



写真2: タブレットPCに自己紹介文を記入

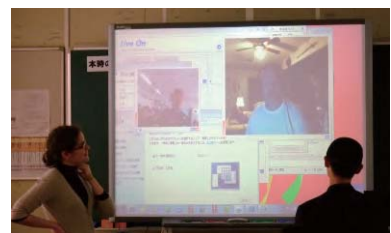


写真3: ALTの家族と互いに英語で自己紹介

児童生徒の反応

本校は昨年度途中からICT活用教育を始めたため、現1年生は入学当初からICT機器を使った授業を受けている。生徒たちの反応は非常に良く、積極的に授業に参加している。今回初めてWebで海外と交流を行ったが、「はじめは海外とつながっているとは思わなかった。びっくりした」「またやってみよう」との声が聞かれた。英語によるコミュニケーションへの意欲が高まった。

活用効果

評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度
具体的容容	英作文を書かせる場合、紙に書かせて実物投影機で電子黒板に提示する方法もあるが、タブレットPCを使うと生徒の書いたものを瞬時に電子黒板に提示できるので、より多くの作品を提示することができる。このことで生徒たちも提示されることを意識してより真剣に作文に取り組むようになった。Web交流は生徒の興味・関心を引きだすのに有効で、普段あまり積極的に発表をしない生徒も手をあげてコミュニケーションをしていた。

実践の手応え

タブレットPCを使うことで、生徒の学習状況を把握したり生徒の作文を電子黒板に提示して共有したりすることにおいて時間短縮につながった。また、Web交流で外国とつながることができたことで今後の学習の広がりの可能性を感じることもできた。